



守口ロータリークラブ 週報 No. 44



ロータリー親睦活動月間

2016~17・RIテーマ

本日のピアノ演奏

1、威風堂々 2、めぐりあい 3、Open arms

本日例会 2017年06月28日(水)
(第2721回)

「2016～2017年度挨拶」
理事・役員
担当：会長・幹事

次回例会 2017年07月05日(水)
(第2722回)

「2016～2017年度挨拶」
各委員会委員長
担当：会長・幹事

出席報告			
例会日	出席	欠席	出席率
06月21日	29 (内免除者1名)	13	69.05%【会員43名】
06月07日	33 (内免除者1名)	メイクアップ3名 (78.57%)	



前回例会 (2720回) 6/21 の主な内容



- ◇◇◇社会奉仕委員会報告◇◇◇
薬物乱用防止教室のご案内
○守口市立さつき学園 対象学年：7年生
日時：6月30日(金) 14：45～
○守口市立庭窪中学校 対象学年：1年生
日時：7月10日(月) 13：50～
○守口市立錦中学校 対象学年1年生
日時：7月12日(水) 13：35～
- ◇◇◇次年度社会奉仕委員会だより◇◇◇
日時：6月21日(水) 11：30～
場所：「事務局」出席：4名
議題：守口市子ども議会について
- ◇◇◇第6回新理事会だより◇◇◇
日時：6月21日(水)
場所：「事務局」出席：
議題：2017～2018年度事業計画書(案)について
・2017～2018年度一般会計予算書(案)と特別会計(1)(2)予算書(案)について
・「社会を明るくする運動」街頭啓発活動さん要請について
・バコロドRC80周年式典の出席について
・守口RCのネット環境について

■ 会 長：三 浦 均
■ 幹 事：石 谷 隆 子
■ 広報雑誌・会報委員長：他 谷 勝
URL：http://www.moriguchi-rc.jp/

■ 例 会 場：ホテル・アゴラ大阪守口 守口市河原町10-5
TEL (06) 6994-1111 (代表) 〒570-0038
■ 事 務 所：守口市河原町10-5 ホテル・アゴラ大阪守口5F 〒570-0038
TEL (06) 6994-0010 FAX (06) 6994-0009
■ メールアドレス：info@moriguchi-rc.jp
■ 例 会 日：毎週水曜日 12時30分～13時30分

◎会長の時間

(会長 三浦 均)

卓 話

記念基金管理委員会
三浦 俊造



「米長邦夫の名言」

本今朝10時から、関西将棋会館で、藤井聡太四段が史上最多28連勝タイ記録をかけて、王将戦第1次予選に臨んでいます。弱冠14歳という若さで破竹の勢いで勝ち進む藤井四段の活躍に世間の将棋への関心が高まっています。

(～次ページに続く～)

守口市社会福祉協議会についてご報告させていただきます。

●私は、守口ロータリークラブより守口市社会福祉協議会へ2005年6月より今年の6月まで12年間出向し努めておりました。

●その守口市社会福祉協議会では、社会福祉法の法律改正が今年4月に行われ、組織のスリム化という方向で全面的に制度改正が施工されました。これによって守口ロータリークラブからの出向は一旦廃止されました。

①全く偶然ですが私の方は年齢により、今年6月で任期満了となります。

②社協からは「守口ロータリークラブ様には、2月に書面にてご説明申し上げた如く、これで終わるのではなく、今後ともご支援賜りたくご協力の程よろしくお願い致します」と異口同音に高岡会長と鳥野専務理事からのお言葉でした。

(～次ページに続く～)

◎幹事報告 (幹事 石谷 隆子)

- 1、韓日親善会議参加の旅のご案内
9/23～9/24 9/22～9/24
9/24～26
(参加ご希望の方は事務局迄)
- 2、次週、6月28日は2016～2017年度最後の例会となります。
是非、ご出席をお願い致します。



ニコニコBOX S・A・A



- 石井 会員 プロゴルファー松山英樹氏の世界ランク2位昇格を祝して。
- 神田 会員 例会欠席のお詫び。
- 三浦均会員 三浦先輩、今日は、卓話宜しくお願いします。
- 岡本 会員 家庭集会有難うございました。
- 石津 会員 来週お休みさせていただきます。すみません。

06/21ニコニコBOX 1,149,000円



◎会長の時間

(会長 三浦 均)

卓 話

記念基金管理委員会
三浦 俊造

「米長邦夫の名言」

(～前ページからの続き～)

将棋に志す者は幼少からプロの道に進みます。米長邦夫永代棋聖も、小学校卒業と同時に佐瀬勇次名誉九段の内弟子となりました。以来、勝負の世界に身を置いて活躍し、米長流ともいべき数々の名言を残しました。その中では、「運命の女神」あるいは「勝利の女神」を常に意識して語っています。

「将棋は明解な世界です。だいたい運に関心を持つなどは横道もいいところ。しかし、A級やB級一組になると、その実力は紙一重。すると、なにか勝負を分ける目に見えない働きがあるのではないか。なにかが右か左にコロッとひと転がりするだけで、運命の女神に微笑まれるか、そっぽを向かれるかに分かれる。運はただ気まぐれに右や左に振れるのではなく、どうもそこにはある法則のようなものがあるように思える」

では、勝利の女神に好かれるとは、どんな人だということでしょう。

「勝利の女神は謙虚と笑いを好みます。謙虚で一番大切なことは自分の運氣に対する謙虚さ。これを惜福というんです。」

米長氏は好んでこの『惜福』という言葉を書き残しています。幸田露伴の『努力論』にある幸福三説の一つで、いい気になって福を使い尽してしまわず、天に預けておく心がけで、福を将来に残す工夫をせよ、ということです。

笑いも重要で、「勝利の女神はな、実力が同じなら若いほうが好きなんだよ。それを跳ね飛ばすには勢いと笑い」とも言っています。

また、「相手にとって重要な勝負こそ全力を尽くす。自分の利害にはたいして影響はないが、相手にとっては重要な意味を持つている勝負を必死に頑張ることで。うまく負かされるほうが気が楽でしょうが、そこでマアマアで負けると負け癖がついてしまい、勝利の女神から嫌われます。」

実際、米長氏が四段の時、勝てば相手はトーナメントプロの資格を喪失するという対局がありました。氏は悩みましたが、「私とその人の首を切らないと、他の棋士が代わりに首を切られるのです。私情に流れることに意味はない。私は無心で盤上一つに自分をかけました。その一番に勝って、大きな運を呼び込むために必死に戦って勝つのだと。」

それまでの将棋界には温情とも思われる将棋も存在したといいますが、米長氏のこの姿勢は米長哲学ともいわれ、多くの棋士に共感されて、徐々に将棋界に浸透していったそうです。

謙虚に、ひたむきに、おおらかに、といった勝利の女神に好かれるありようが見えてくるようです。

経営者は最終責任を負わなくてはなりません。常に厳しい目でチェックし、納得できる説明を求めるべきです。東芝ではその部分に逃げがあったのかもしれませんが。経営者にとって能力は必要条件ですが、十分条件は、の能力や注意力の配分、そして最終責任者としての自覚と行動なのです。

(～前ページからの続き～)

私の職業—中小運送業・A社の事例—

近年の物流は情報技術の進歩と同じぐらい、あるいはそれ以上のスピード進歩している。物流現場、特に宅配現場では、大手物流企業が経営資源を駆使して、情報力と科学的、先進的宅配技術を研究された結果、顧客に生活革命ともいえる超利便性を提供している。さらにその有効性はロジスティクス4.0で代表されるイノベーションが今まさに実践されようとしている。

中小運送事業者は、その物流の中核を担っており、生産物流から消費物流に至るまで素早く安全に、消費者まで商品を送り続けている。

そして今日、アベノミクスで景気が良くなっていると聞くが、A社にはまだその実感はない。むしろ円安による燃料の高騰や、若年労働者の人口減少も加わったドライバー人材確保の難しさが、益々経営環境を悪化させているようにすら感じる。

物流業の99%を占める中小企業の多くが、厳しい経営環境に置かれている中で同業他社との競争は年々激しさを増してきている。従って運賃値下げ競争を続けている限り会社は疲弊する。このような状況から人件費削減を余儀なくされ、その結果、慢性的な人材不足の一要因にも繋がっている。

物流は経済を支える最も重要な基盤であることを企業の後継者が認識すれば、物界の未来は確立でき、永遠であると信じる。その中核は中小企業の事業者そのものであることを再確認せねばならない。

今日、物流業界の中小企業における輸・配送において顧客からより厳しい視線を受け、また反面、顧客の支持も集めている。物流は私達も含めて、何よりも市民生活の利便性を追求している。買い物難民や買い物弱者の少しでも解消される方向へ貢献できれば、目標の貫徹へ近づいていることになる。

近年、企業経営のなかでも物流の重要性が高まっている。市場が成熟し、商品自体での差別化が容易になる中、物流が競争優位を確立する切り札として注目されるのは身近にあることだ。このような時に自社が持つ顧客との接点に潜む価値(強み)を見出し、その価値を活用し、きめ細かな新サービス(新製品開発)を創造することが可能になっていくのである。

その上で中小物流事業者が近い将来において、希望とモチベーションの持続によって多少でも、健康で文化的な生活が誇示できるような業界に成長していかなければならない。そしてグローバル化されていく未来に対しても胸をはって応答できるような希望的方向を目指していくことを、強く願望するのである。

物流業界はこれからも21世紀の暮らしを支え、社会と調和しながら事業を育成し、社会貢献に繋がるように努めていくべきである。従って、社会からより厳正な視点で評価受けながら、ひいては物流界の進展が社会貢献と並進できるならば、これに勝る目標は他に見当たらない。